

「東京プラネタリー☆カフェ」は
毎週さまざまなゲストをお招きし、星の話題をお届けしています。

そして10周年を迎える今年、
ビクセン主催(協賛:東京ガーデンテラス紀尾井町)の
「星空フォトコンテスト」と連動。

リスナーの皆さんの星空にまつわるエッセイを募集しました。

テーマは「それぞれの宙(そら)を見上げて」。

そっと背中を押してくれた、あの時の星の輝き…

大切な人と眺めた星空…

とっておきの星空ストーリー、

番組内でオンエアされた作品達をご紹介します。

パーソナリティ:篠原ともえ

Tokyofm
Life time audio 80.0

Every Saturday 20:30~20:55 onair

Tokyo 東京プラネタリー☆カフェ
Planetary★Cafe

10th Anniversary

ここは大都会東京のどこかにある、天文台を改装したパーティラウンジ…
「東京プラネタリー☆カフェ」。今日もステキなゲストをお招きして、
宙トーク満載のパーティが始まろうとしています…。

パーソナリティ: Tomoe Shinohara

TOKYO GARDEN TERRACE 紀尾井町 Vixen

No.1



「私だけのプラネタリウム」

2004年のこと。

夫の出張に着いて行き、稚内へ出かけました。

夫は仕事なので、私ひとりでどこに行こうか迷いましたが、

稚内にもプラネタリウムがあることを知り

そこでおろしてもらうことに。

平日の昼間だったのでなんとお客さんは私ひとり。

それでも私のためだけに生解説で投影を下さったんです。

まさかプラネタリウムを独り占め出来るなんて!

ずっと忘れられない素敵な星空体験です。

2022.4.16 ON AIR ラジオネーム「ことのは もも。」さん



「生涯一度の流れ星」

生まれも育ちも横浜のわたし。

輝くような満天の星空には旅先でしか出会えません。

でも、生涯たった一度だけ見た流れ星は
駅から徒歩10分の自宅への帰り道でした。

当時、片思いをしていたわたしは、

ふと夜空を見上げ

「〇〇さんに会いたいな」と呟きました。

すると

キラッと輝いた星が落ちていくのが見えたんです。

あれ以来、都会の星空だってちゃんと見ていたら

素敵なことが起こるかもと、

今でもわくわくしながらそらを見上げています。

2022.4.23 ON AIR ラジオネーム「りんころがし」さん



「心の道しるべ」

日常生活で

壁にぶつかったり、悩んだり、落ち込んだり。

そんな時はいつも星を観に行く。

1番最初に見つけるのがオリオン座。

気づいたら悩み事を忘れて 星探しに没頭している。

この癖はずっとこのままだろう。

いや、このままであってほしい。

オリオン座はいつも僕の心の道しるべ。

2022.4.30 ON AIR ラジオネーム「sho10号」さん



「今も昔もこれからも」

初めて天体望遠鏡を覗いた人々に

感動を与えるナンバーワンは、

今も昔も変わらず『土星』だ。

あの美しく特徴的な“輪”は、

神秘的な宇宙そのもの。

17世紀初頭、自作の望遠鏡で初めて輪を観測した

かのガリレオ・ガリレイは

「土星には耳がある!」と記したそう。

感動と同時に、さぞかし驚いたことだろう。

そして未来。

これからも驚きの発見や感動がたくさんあるはずだ。

2022.5.7 ON AIR ラジオネーム「きいす」さん



「星空に隠されたプロポーズ」

社会人1年目の時、彼と沖縄へ。

二人で外を散歩していると

普段見たことがないくらい、星空が綺麗でした。

「こんな星空を見ながらプロポーズされたら嬉しいよね」

と話をすると、

彼が何か私の言葉にかぶせるようにして言いました。

「ごめん聞こえなかった！」

すると、まさかの

「結婚しよう」という言葉。

最高の星空の下での一生の思い出です。

2022.5.14 ON AIR ラジオネーム「ネロネロ」さん



「星空で乾杯」

60年付き合っている親友と、毎年キャンプに行きます。
バーボンを飲みながら夜空を見上げれば、そこは別世界。

すぐそこに星があり、手が届きそうです。

黙って二人で空を見上げて、乾杯！

心の中で

「親友でいてくれてありがとう！」

とつぶやきます。

今年も早く星を見に行きたいです。

2022.5.21 ON AIR ラジオネーム「ゼロ」さん



「娘の瞳に映る星」

娘は幼い頃から、お星さまが大好きでした。

でも私たち家族が住んでいる町では、星空がきれいに見えません。

その代わりにプラネタリウムに行きました。

三歳になったばかりの娘は

「お星さま、とってもキレイだったね」

と喜んでいましたが、帰る道すがら

「お空でも観たい」

と小さな声でねだられました。

その年の家族旅行は、「美しい星空」で有名な

岡山県井原市美星町。

家族そろって、満天の星を眺めました。

娘の目に映る星は、いちばん輝いて見えました。

2022.5.28 ON AIR ラジオネーム「保健委員」さん



「本当の“きぼう”」

優しかった父の死やコロナ禍・・・

私は悲しみと不安を感じていました。

そんなある時、旦那に言ってみました。

「ねえ、国際宇宙ステーションのきぼうを見ることができたら

本当の希望も見えてくるんじゃないかな？」

「そうだね。二人で一緒に見ようか？」

そして・・・

“きぼう”は予報の時間通りに 暗くなった空に突然現れました。

私の頬には流れ星のように涙が伝っていきました。

隣を見たら、目を真っ赤にして微笑んだ旦那が居ました。

2022.6.4 ON AIR ラジオネーム「マハロン」さん



「太古から続く天の川」

あの光の帯は何？

海沿いの崖から見下ろすと、
海の上にごく淡く、でも太くしっかりと
自分に向かって伸びてくる光の帯。

明るい線の先に目をやると、
西に沈みかけのアークトゥルスと
正面に輝く木星が。

「あれは天の川だ！ 天の川が海に映っているんだよ」

ここは屋久島と奄美大島の間、トカラ列島。

何にもないからこそ、見られるものがある。

太古の景色がそこにはあった。

2022.6.11 ON AIR ラジオネーム「ななのたか」さん



「星空との対話」

32年前のこと。

OL生活に疲れはて、語学留学という名目で

イタリア・トスカーナ地方に逃げ出した私。

ホストファミリーの誘いで ホタル狩りに出掛けた帰り道、

天の川さえ隠れてしまいそうな満天の星。

圧倒された。

人間のなんてちっぽけなことか。

もっと自分らしく生きよう!

そんな星空と対話したあの夜を私は忘れない。

2022.6.18 ON AIR ラジオネーム「キュンキュン夢子」さん



「流れ星にたくした夢」

友達に誘われて、星のことなど全く知らずに入部した天文部。

初めての夏合宿で見た、ペルセウス座流星群。

東京の夜空では見られない、圧倒的な星の数々。

レジャーシートに寝転んで、みんなで夜空に向かい、

たくさんの夢を流れ星にたくした

あの日から20年以上たち

それぞれ今は違う場所ではがんばっている毎日。

けれどきっと夜空はあの時から

今も変わらずみんなの夢を照らして、

つないでくれていると思います。

2022.6.25 ON AIR ラジオネーム「コスモス」さん



「星が繋いでくれるから」

私が初めて覚えた星は「ひしゃく星」

幼い頃に父が教えてくれた。

私は父と一緒に星空を見るのが大好きだった。

ある日、父の単身赴任が決まり

悲しむ私に、父は言った。

「淋しくなったら、夜、星を見てごらん。

パパも毎日見てるからね」

大人になり、遠く離れて暮らす父に、今は私が言う。

「大丈夫だよ、心配しないで。

いつも夜空を見上げてるから、パパも見て！」

離れていても、星空は私達の心をいつも温かく繋いでくれる。

2022.7.2 ON AIR ラジオネーム「葉っぱ」さん



「真夏のオリオン」

北アルプスの玄関・涸沢。

8月15日のお盆は、山小屋が1年で最もにぎわう日でもあった。

混みすぎて寝られず、疲れもとれない。

深夜3時すぎ、寝るのをあきらめ、

外に涼みに出た私にとっておきのプレゼントがあった。

オリオン座が輝いていたのだ。

真っ暗だと思っていた夜空は、星の光が想像以上に明るく

山の稜線も銀河も黒の濃淡でわかるほど。

「真夏に真冬の星座」

というサプライズに、疲れも一瞬忘れる。

オリオンは出番を待ちきれずにいるようだった。

2022.7.9 ON AIR ラジオネーム「半蔵門太郎」さん

No.14



「あれから星はいつも」

なにげなく友だちに誘われた富士登山。

山頂でのご来光を見ようと、

深夜に着いた五合目で目にした流れ星の数々。

今は、夜の買い物の最中に月を眺めたり

ベランダで流星群を眺めたりする時間が

ほっとできる瞬間となっています。

2022.7.16 ON AIR ラジオネーム「ウサプー」さん

Tokyofm
Life time audio 80.0

Tokyo 東京プラネタリー☆カフェ
Planetary☆Cafe



「あの頃の夢が紡いだ奇跡」

私達が結婚を決めたのは、26歳。

高校の時に少しだけ付き合ったクラスメイトと、

10年後に再会してのことでした。

10年経ったら、いろんなことが素直に話せるようになり

ある時「小さい頃なりたかった職業は？」と聞いてみたら、

私の3歳の頃の夢と同じ

“天文学者”。

今は星のよく見える郊外に住み、

テラスから見える星空や月明かりを

子供たちを含めた家族四人で楽しんでいます。

星の光が、遠く離れた場所まで時間をかけて届くように

私達の気持ちも通じ合うまで、

10年の期間が必要だったみたいです。

2022.7.23 ON AIR ラジオネーム「ほの」さん



「忘れられた流星群」

11月。

彼と付き合っただけですぐに連れていかれた、しし座流星群。
星に興味はなかったけど、寒い土手で肩に毛布をかけながら
一緒にいくつも流れ星をみた。

12月。

自宅の庭から見上げた、ふたご座流星群。
「深夜に一人で起きてたんだけど、流れ星見られなかったよ」
と夫にいうと、
「そんなに好きだったっけ？」
と言いつつ、その日は一緒に星空を眺めた。
あなたが20年以上前に教えてくれたから好きになったんじゃない、
忘れてるなあ。

次の流星群も誘ったら一緒に見上げてくれるかな。

2022.7.30 ON AIR ラジオネーム「レイ」さん



「姉に教わったあの星を」

私の姉は星空が大好きで天文学を学んでいて、まだ幼かった私に
「あの星座はね…」と、いろいろと教えてくれました。

姉とは年が離れており、会話するよりも
二人で星空を眺めていた時間の方が長かったと思います。

姉が結婚して家を出たため、
星空を見る機会もなくなってしまった数年後のこと。

姉が亡くなったとの知らせが入りました。

それから数十年経ち、私の星空の記憶は
姉と見たあの空で止まっていたのですが…

数年前に子連れで沖縄に旅行に行ったときに、
ふと空を見上げたら、満天の星で姉に教えてもらった
星座を見ることが出来たんです。

お姉ちゃん。お姉ちゃんと見た星空を、今は子供と見ているよ。

2022.8.6 ON AIR ラジオネーム「キサ」さん



「彗星をとらえて」

私の思い出の星空は、1986年の「ハレー彗星」です。

南の低い空しか見えないとのことで、
南方の太平洋が一望できる場所として
三浦半島の城ヶ島まで行きました。

肉眼でもうっすらと見えたことを記憶しています。

当時の宝物だった一眼レフカメラで、
シャッタースピードを何回か変えて
夢中でシャッターを押しました。

赤道儀などの存在も知らない超初心者で
天文知識などもなかったのですが、
なんとか2枚だけ写真に写っていて感動しました。

次に見られるのは2061年…。

あの時の写真とネガフィルムは、今でも宝物の1つです。

2022.8.13 ON AIR ラジオネーム「ライオンのしっぽ」さん



「星と友達」

子供の頃、田舎のおばあちゃんの家に行って

たくさんの星を一人、庭でみるのが好きでした。

星は寂しかったり悲しかったりする時は優しく瞬いて見えます。

大好きなお婆ちゃんが亡くなって悲しみにくれている時、

母は私にこう言いました。

「お婆ちゃんは星と友達になったんだよ」

星になったのではなく、星と友達になったんだ！

お婆ちゃん素敵！って 思えました。

私も大好きなお婆ちゃんのようにいつか星と友達になりたいです。

2022.8.20 ON AIR ラジオネーム「たらたん」さん



「ある星見の日」

大学で天文同好会というサークルに入った私は
はじめて、みんなで星をみる楽しさを知りました。

先輩に連れられて行ったある星見の日、
車のライトを消したとたんに現れた、圧倒的な星空。

しばらくの間、皆、黙って空を見上げています。

「すごい星だね」と言いながらふりむくと

全員がポカンと口を開けている。

「なんで空を見ると口を開けるんだろね」

と言うと、誰かが

「それは、人間は無意識に星のエネルギーを
吸い込むようにできているからだよ」と一言。

そんな彼らは、40年たっても一緒に

星見をしてくれる大切な友人です。

2022.8.27 ON AIR ラジオネーム「あくんけくん」さん



「夜空の星とすれ違い」

彼とのデートで、生駒山のプラネタリウムに行った後、そのまま二人で夜空のほんものの星を見上げました。

「きれいだね」と言う彼に

「えっ、私が?」と茶化して言うと、彼は絶句。

後で聞くとその時プロポーズしようと思っていたとのこと。

無言で北極星と北斗七星を眺めながら、私は私で

「あーずっとこの人と一緒にいるのかなあ」

とっていました。

ちょっとすれ違ってしまったけれど、幸せな夜でした。

2022.9.3 ON AIR ラジオネーム「なつなつまーず」さん



「ウユニ塩湖の星々」

私の思い出の宙は、奥さんと世界一周で訪れた

ウユニ塩湖での星空です。

その日は雨季の新月の夜。

塩の大地に降り注いだ雨水が

辺り一面を鏡ばりにするリフレクション。

無風で雲もない奇跡のようなコンディション。

高度 5000m の大自然の夜はまさしく満天の星空。

足元に目を落とすと鏡ばりの星空が広がっていました。

煌めく星々に包まれる幻想的な世界に呆然と立ち尽くす二人。

この宙を僕たちは忘れることはないでしょう。

2022.9.10 ON AIR ラジオネーム「青の旅人」さん



「どんな宇宙が」

息子たちが小さかった頃

宇宙好きの長男の希望で、星空観測会へ。

大きな望遠鏡で土星を観察。

兄は、土星の輪を初めて自分の目で見て、大興奮。

3歳下の弟も、兄のマネをして

片目をつぶって望遠鏡をのぞきます。

「見えた?」と聞くと「うちゅう、みえた!」と。

でも次男がつぶっていたのは、望遠鏡に当てていた方の目でした。

次男の目には、どんな宇宙が見えていたのでしょうか。

その息子たちも今は大学院生と大学生です。

2025年、真横になって輪が見えなくなった土星も

家族で観察しに行けたらいいな。

2022.9.17 ON AIR ラジオネーム「はにゃ」さん



「夜釣りと月夜の晩と」

今年の8月11日の夜、
釣り好きの主人が夜釣りに初めて連れて行ってくれました。

場所は北茨城市の大津港。

だんだんと夜の帳が下りてきた夜6時。

水平線からだんだんと昇ってくる満月が

海に月の光の道を延ばしていきます。

あまりの美しさに主人に興奮しながら話しかけても

彼は釣りに没頭中。

結局、鰹が大漁に釣れて夜釣りは終了。

思い出に残る大津港の月夜の晩でした。

2022.9.24 ON AIR ラジオネーム「課長シェリーメイ」さん



「月の大きさは？」

小学生の頃、空に浮かぶ白い月を見ながら

友達とこんな会話を交わしました。

「月ってどれくらい大きいんだろうね」

「さあ…教室の半分くらいじゃない？」

家に帰り、母にこのことを話すと、

明るく笑いながらこう言われました。

「もっと、地球くらい大きいだよ。

教室の半分じゃあ、小さすぎて見えないよ」

その時私は、ハッとすると同時に

宇宙に浮かぶ惑星の壮大さを感じ、

言葉にできない感動を覚えたのを、

大人になった今も月を見上げる度にふと思い出します。

2022.10.1 ON AIR ラジオネーム「つぶみかん」さん



「清里の星空」

18才になり車の免許を取って、はじめての遠出が

山梨県の清里という所でした。

友人と3人で、美味しくて有名な

ソフトクリームが食べたくて行った清里。

夜までいると、周りにはかりがないので満天の星空に。

感激しました。

流れ星も「あ!あ!」って言うぐらい良く見えました!

とにかく夜空に隙間なく星だらけを見た、若い頃の思い出。

今でも忘れません。

2022.10.8 ON AIR ラジオネーム「みーこ」さん



「砂浜に寝転んで」

もう20年前になるでしょうか。

石垣島へ行った時のことです。

日中はプールやビーチ、アトラクションで楽しみ、
夕食後、少し酔いを冷ます気分でビーチに行きました。

近くの砂浜に横たわり、「気持ちいいー」と伸びをし

上を見上げた時の光景に絶句。

沢山の星たちが今にも落ちてくる？

と思うほどの満天の星。

砂のあたたかな温もりと星空に癒されたひとときでした。

2022.10.15 ON AIR ラジオネーム「やこっち」さん



「いつか流れ星を」

星空が大好きな私ですが、

なぜか流れ星はいつも見逃してしまいます。

中学校の夏合宿の夜、みんなで流れ星を待って
星空を見上げていて、私がふと下を向いた瞬間、

みんな一斉に「あっ!!!今の大きかったね!」。

みんながワイワイしてる中で、一人ボーゼンとする私。

就職したばかりの時も、大きい流星群がくると

職場仲間と岬の方へ行き、寝そべっていたら

「バシュッ」と音がするほどの大流星が!!!

…私以外はみんな見られたそうで、ワイワイ興奮する中

やっぱり一人ボーゼンの私。

いつか、びっくりするほど大きな流れ星をみようと、

流星群のくる日には諦めずに夜空を眺めています。

2022.10.22 ON AIR ラジオネーム「猫月夜」さん



「モアイと星空」

私の思い出の星空はイースター島の満天の星空です。

ハネムーンで訪れた絶海の孤島。

モアイ像がいたるところに立ち並ぶ姿は圧巻の一言でした。

私は二度と来ることは無いであろうこの島で、

思い出の一枚が撮りたい!

との想いで、海辺にたくさん並び立つモアイ像の元へ。

レンタカーで少し仮眠してから深夜に二人で起きると、

想像を絶する満天の星空が。

水平線まで星がいっぱいにきらめいていて、思わず感動の涙。

モアイ像のシルエットと星空の写真は

私にとっての最高の思い出の一枚になりました。

2022.10.29 ON AIR ラジオネーム「メープルクッキー」さん



「甘いケーキと流星群」

私は星空大好きなパティシエール。そんな私の彼氏は天体マニア。休みの日は車を走らせて星空の写真を撮影によく行っています。いつも一緒についていき、横でコーヒーを飲みながら過ごすのが何よりの幸せ。

出会って3年目の彼の誕生日。流星群の降る夜。

星空をイメージしたケーキを作り、サプライズで渡しました。

普段感情をあらわにしない彼が物凄く喜んでくれて、

その後まさかまさかのプロポーズ。

本当は私の誕生日にプロポーズするつもりが、

感極まってつい言ってしまったのだとか。

あの夜の流星群とケーキは一緒忘れることのない宝物です。

2022.11.5 ON AIR ラジオネーム「星空パティシエール」さん



「星空で一步を」

息子が小学生だった頃、
突然学校に行けなくなりました。
親子で試行錯誤していたあの頃、
ふと見上げた夜空の美しさ。
空はなにも変わってなかったことに、
いつしか心が落ち着いていきました。
それから星空会に星を見に行ったり、
自由研究で星空をテーマにしたり。
一步一步こえて、いまは、元気な大学生です！
自然の美しさは子どもの心にも効く。
そう信じています。

2022.11.12 ON AIR ラジオネーム「スターはっけん」さん



「ひとつになれた星空」

真冬の寒い中 日付けをまたいで仕事が終わった後、

同僚たちと作業着のまま 流星群を観察しました。

ひとり、どうしても見ることができないでいたので

「一点をみないで全体を見るんだよ」

などと話したりしてから1時間。

その人が「見れたよ!」と。

その瞬間「ヤッター」と

みんながひとつになったような喜びの歓声が上がりました。

あれからもう10年経ってしまったけど

あの時のような冬の澄んだ星空を眺めるとふりかえる、

大切な思い出です。

2022.11.19 ON AIR ラジオネーム「ひなたぼっこ」さん



「寄り添ってくれた星」

昨年11月、北海道の「なよろ市立天文台きたすばる」で、土星と木星をはじめて観測しました。その頃、仕事の忙しさから

自分を見失って体調を崩してしまい、東京を離れ

北海道の友人を頼って長いお休みをとることにしました。

北海道に着いてすぐ、友人が連れて行ってくれた場所がこの天文台。

その日はとても空気がきれいな日で、木星の模様も土星の環っかも

くっきりと見え、ながーい天の川もきらめいていました。

案内をしてくれた職員の方も「こんなにはっきり見える日は本当に珍しい!」と

おっしゃっていました。とても幸運だったようです。

遠い宇宙にワクワクしながら思いをはせる時間は、

私の心を一気にほぐしてくれ、北海道から帰る頃には少し元気に。

二か月後、無事に復職しました。

友人にも、星や惑星にもとても感謝しています。

2022.11.26 ON AIR ラジオネーム「なっちゃん」さん



「一緒に見た流れ星」

昔、信州の富士見高原へスキーに行きました。

夜に星空を眺めていると、

「あっ!!流れ星!!」

生まれて初めて流れ星を見ました。

しかも、何度も見れたのでとても感動しました。

願い事を三回唱えれば、願いが叶うといいますが、

とてもそんな余裕はなく、本当に一瞬のことでした。

流れ星の美しさに、心が洗われてとても幸せな時間でした。

ちなみに、その時一緒に流れ星をみたのが今の主人です。

流れ星が二人の距離を近くしてくれたのかな??

2022.12.3 ON AIR ラジオネーム「かもちゃん」さん



「祖母はいつでも宙に」

先日、大好きな祖母が亡くなりお星様になりました。

103歳の大往生でした。

私が小学生の頃、近所の学童保育に

毎日お迎えにきてくれました。

冬の寒空のなか、祖母の手編みのケープにくるまりながら

見上げる空には星や月が美しくきらめき、

それはそれは美しかったのを覚えています。

淋しさはつのもるばかりですが、悠久の星空を見上げれば
幸せな思い出が蘇り、私の心をあたたかく癒やしてくれます。

2022.12.10 ON AIR ラジオネーム「もだま」さん



「あっちあっち!に流れ星」

昨年、僕が進路で迷っている時、
母が長野県の阿智村へ連れて行ってくれました。

『あー! あっちあっち』なんて母がはしゃぐから

視野を広くして空を見ていたら

え? 流れ星! 本当に見えるんだー!

もう夢中で流れ星を探しました。

いつしか頭の中でどんよりしていたものが
スッキリして気持ちが前向きになりました。

来月中旬に就職の結果発表があります。

受かったらまた星、見にいきたいなあー。

2022.12.17 ON AIR ラジオネーム「マー坊」さん



「なにげない星空」

離島出身の私にとって、いつだって星空は見上げたら
そこに広がっているなにげない風景のひとつでした。

夏は近所の友だちと毎日のように
少ないお小遣いを使って持ち寄った手持ち花火で遊び、
花火が終わったら海辺の砂浜に寝転がって
天の川を眺めながら他愛もない話をするのが定番。

東京で暮らすようになり、そんな日々がどれほど貴重で
幸運な時間だったのかを思い知らされました。
ここしばらく故郷には帰ることができていないので、
今年の冬こそはまたあの満天の星空に
会いに帰りたと思います。

2022.12.24 ON AIR ラジオネーム「ましろ」さん



「WELCOME STAR」

20年前の新婚旅行。

念願のモルディブへ。

10時間超えのフライトの末に
辿り着いた時には真っ暗な夜・・・
そして私たちを迎えてくれたのは
あたり一面の星でした。

この為に夜に到着したのかな、、、なんて憎い演出。

しばし時間を忘れて魅入りました。

あれから夫婦、年齢を重ねましたが
いつか必ず、また星、見にいきたいなあー。

2022.12.31 ON AIR ラジオネーム「てつはるまき」さん



「半分のお月さま」

娘のひなこが小さかった頃のことです。

習い事からの帰り道、すっかり暗くなった空に

綺麗な半月が浮かんでいました。

「ほら、お月さまキレイだね」

と娘に言うと、なんと彼女は涙ぐみ

「ひなちゃん、まあいいお月さまが好きなのに、

なんで半分になっちゃうの？」

と言うではないですか。

その可愛らしい問いにどう答えたかは忘れてしまいましたが、

子供の感性ってすごいなあと感動した事は、

いまだに半月を見るたびに思い出します。

2023.1.7 ON AIR ラジオネーム「しらす」さん



「来年のオリオン座」

高校3年生の冬。

夕方遅くまで、学校の自習室で受験勉強をしていました。

受験する学校は決めたものの、

本当は心の中ではたくさんの悩みがありました。

それでも進み続けなきゃ行けない矛盾に、さまよっていました。

帰り道。同じクラスの友達と歩いていると、

空にはくっきりオリオン座。

「わあ、綺麗だね！」白い息とともに、そう話しました。

まるで砂時計のようで、

それは高校生としてのタイムリミットを確実に告げていました。

来年またオリオン座を見るときは、

どんな自分になっているのだろうか、

少しだけ寂しくなった夜でした。

2023.1.14 ON AIR ラジオネーム「はな」さん



「島の星空」

生まれて初めての飛行機で向かったのは、沖縄の小さな島。

『島はおうちと違って、のんちゃんが大好きなお星さまが
ビックリするくらいたくさん見られるんだよ。』

この母の言葉に、こころは踊っていました。

でも、到着した島はあいにくの雨。

とても落ち込む私に島のおばあは

『明日は晴れるよ。』と一言。その言葉通りに翌日は快晴。

夜になり浜に出てみると、まさに宝石箱をひっくり返したような

満点の星空。

私は、はしゃぐのも忘れて、ただひたすらにその光景に

吸い込まれていきました。

その美しい光景は心に深く刻まれ、私は今、

大学で天文学を学んでいます。

2023.1.21 ON AIR ラジオネーム「のんちゃん」さん



「しょんぼり沈んでいくしし座」

小学生の時に見に行ったプラネタリウム。

そこで聞いた解説で印象に残っているのが、

「ヘラクレスに倒されたしし座は、

ヘラクレス座が登る時に、

反対の空へしょんぼり沈んでいきます」

という言葉。

そこから星が大好きになりました!!

大人になってからプラネタリウムを巡るようになって、

そこで仲良くなった彼と見に行った

ペルセウス座流星群が今でも思い出です。

いつか、彼の地元の長野で満点の星空を見ることが

今の私たちの目標です。

2023.1.28 ON AIR ラジオネーム「レグルス」さん



「星空からのエール」

社会人になり 初めての勤務地は、

生まれ育った地から遠く離れた街でした。

慣れない生活、慣れない言葉。何度もくじけそうになりました。

半年に一度、地元に戻るのを楽しみにしていました。

しかし、一度帰って来るとその居心地の良さに

勤務地へ戻りたくないと思い始めてしまうのです。

もう少しここにいたい。

と粘り、ギリギリの時間まで地元に残っていました。

戻らなきゃダメだ。と踏ん切りをつけられるのは深夜でした。

車で4時間、山を越える道中、空には星がたくさんありました。

星たちが「頑張れ、頑張れ。」と励ましてくれました。

社会人になり20年が経ちます。今は笑顔で星空を見れています。

あの時の星たちのお陰です。

2023.2.4 ON AIR ラジオネーム「嬉し涙じゃじゃ丸」さん



「惑星のような距離感」

「火星の大接近って、こんなに近いんだあ！」

そう言って遠距離片想い中の彼が送ってくれた写真は、お月様でした。

「それは、月。火星は赤く光っている星だよ。」

毎日惑星の位置を確認しながら夜空を見上げるのが好きな私は、

夜空に無頓着な彼の言葉に思わず笑ってしまった。

それ以来、彼は時々、満月の写真を送ってきてくれる。

先日の皆既月食。私は仕事で少ししか見ることが出来なかったけど、

彼は始めから最後までしっかり堪能したそう。

「写真、上手く撮れなかった～」

そう言って送ってくれたブレブレの写真が嬉しかった。

これって、「遠距離両想い」って思ってもいいのかな？

惑星のように読めない距離感を確かめながら、

今日も宇宙を見上げています。

2023.2.11 ON AIR ラジオネーム「なな」さん



「涙と星空」

信州に旅をした帰り道、温泉に立ち寄りしました。

あったかい温泉にゆっくりつかり、癒された後

ふと見上げた星空が、あまりにも綺麗すぎて感動しました。

小さな星がきらきら光って 空全体が天の川のように。

せっかく温泉で、温まった体が湯冷めしちゃうぐらい

「ずっとその場から、離れたくない!!」

その時一緒に星空を見た彼女は

感動のあまり涙を浮かべていました。

その姿を見て僕は、

彼女の事をもっともっと 好きになりました。

2023.2.18 ON AIR ラジオネーム「コバルイ」さん



「7歳の皆既月食」

昨年の11月、皆既月食と同時に天王星食が見られた
442年ぶりの天体ショーを、7歳の息子と一緒に見ました。

あんなにきれいに月食が見られたのは私も初めてで、

息子と二人ですごいねと大興奮。

写真を撮ったり、絵を描いたりしながら

天体ショーを楽しみました。

息子がポツリと言った、

「ぼく今日のことずっと忘れたくないなあ」

という言葉に、私も小さな息子と見たこの宙を

一生忘れないでいようと思った瞬間でした。

2023.2.25 ON AIR ラジオネーム「オレンジ」さん